カラム：内径4.6㎜、長さ250㎜のステンレス管に粒径５μmの液体クロマトグラフ用オクタデシルシリル化シリカゲルを充填する。
カラム温度：25℃付近の一定温度
反応槽（反応コイル）：内径約0.5㎜、長さ約5.0ｍの管
反応槽温度：98℃付近の一定温度
移動相：メタノール・水・酢酸混液（940：60：１）
発色液：メタノール950mLと硫酸20mLを混和し、これにバニリン30ｇ（29.5～30.4ｇ）を溶かす。
移動相流量：毎分約0.65mL
発色液流量：毎分約0.65mL
カラムの選定：常用標準モネンシン及び常用標準ナラシン５㎎（4.5～5.4㎎）ずつを量り、メタノール（９→10）を加えて溶かし、250mLとする。この溶液200μLにつき、上記の条件で操作するとき、モネンシンＡ、ナラシンＡの順に溶出し、その分離度が3.0以上のものを用いる。
面積測定範囲：ナラシンＡの保持時間の約２倍

純度試験

①　鉛　本品1.0ｇ（0.95～1.04ｇ）を量り、約200℃で２時間炭化した後、約250℃から１時間当たり50℃の昇温速度で約450℃まで加熱し、この温度を２時間保持して灰化する。放冷した後、硝酸５mLを加え、時計皿で覆い、砂浴上で加熱し、時計皿を除き、ほとんど乾固する。放冷した後、塩酸（１→６）約25mLを加え、10分間緩やかに加熱する。放冷した後、100mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて100mLとし、30秒以内にろ過し、試料溶液とする。別に、原子吸光光度用鉛標準液1.0mLを量り、100mLの全量フラスコに入れ、塩酸（１→６）約25mLを加え、更に水を標線まで加えて100mLとし、標準液とする。試料溶液及び標準液につき、各30mLを量り、リン酸８mL、ヨウ化カリウム溶液（６→10）２mL及びメチルイソブチルケトン10mLをそれぞれ全量ピペットを用いて加え、約１分間激しく振り混ぜた後、少時静置する。30秒以内に、直射光を避けながら、試料溶液及び標準液から得たメチルイソブチルケトン層につき、光源として鉛測定用中空陰極ランプを、可燃性ガスとしてアセチレン又は水素を、支燃性ガスとして空気を用い、波長283.3nmで原子吸光光度法（フレーム方式）により試験を行うとき、試料溶液から得たメチルイソブチルケトン層の吸光度は、標準液から得たメチルイソブチルケトン層の吸光度以下でなければならない（25μg／ｇ以下）。

②　ヒ素　本品1.0ｇ（0.95～1.04ｇ）を量り、ヒ素試験法第３法により試料溶液を調製し、装置Ａを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、吸収液の色は、標準色より濃くてはならない（26μg／ｇ以下）。

ただし、標準色の調製に用いるヒ素標準液の量は、13mLとする。この色は、三酸化ヒ素0.026㎎に対応する。

ヒ素標準液　ヒ素標準原液20mLを全量ピペットを用いて量り、1,000mLの全量フラスコに入れ、希硫酸５mLを加え、新たに煮沸し冷却した水を標線まで加えて1,000mLとする。この溶液１mLは、三酸化ヒ素0.002㎎を含む。この溶液は、用時調製し、共栓瓶に保存する。